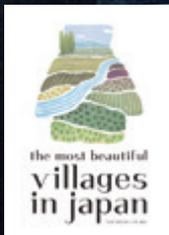


広報 ㊦
No.730
令和6年

いいたて12

www.vill.iitate.fukushima.jp





大和田保男さん(八木沢・芦原)の「ざる菊」。赤・黄色のコントラストが鮮やか。

目次 CONTENTS

- 02 話題「飯館産ホップの新作ビールが完成!」
- 04 特集1「飯館村から始まる食物語」
- 12 特集2「ふくしま駅伝」
- 14 特集3「文化祭・秋まつり・冬まつり」
- 18 空から百景「秋深し」
- 20 学びの広場「いいたてっ子発表会・赤蜻祭」
- 21 学びの広場「ハロウィンパレード」ほか
- 22 ほけんとふくし「むし歯0の子表彰式」
- 23 お知らせ「ふるさと納税」ほか
- 24 ほけんとふくし「老人クラブ交流会」
- 26 いいたて便り
- 28 話題のパレット
- 30 村からお知らせ
- 31 いいたてなりわいREPORT
- 32 いいたてイノサル通信
- 33 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 34 村民広報委員コラム ほか
- 35 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 36 ほっとNEWS／おしらせ

📷 今月の表紙



黒毛和牛の繁殖と肥育に取り組む山田豊さん、あゆみさん夫婦。併設の精肉店「肉のゆーとびあ」の熟成肉が、各方面から支持を集めています。詳しくはP4からの特集をご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係☎0244-42-1613までお知らせください。

飯館村ホッププロジェクト 飯館産ホップの新作ビールが完成

宿泊体験館きこりで「IITATE ReCRAFT」の完成お披露目会

「冷涼な気候を好むホップを、近縁種が自生する飯館村で栽培してみよう」。今年、東京大学の院生と学部生約20人の有志が、『飯館村ホッププロジェクト』を立ち上げ、村に通ってホップを栽培。摘みたての穂花(＝ホップの花)を使って、オリジナルのフレッシュホップビールを仕込みました。

10月26日、このビールの完成お披露目会が宿泊体験館きこりで開かれました。会では、村内の協力者や関係者約30人が笑顔で乾杯。プロジェクトメンバーと交流しました。

参加者は、ビールの美味しさに表情を輝かせ「香りと風味が素晴らしい」「ホップの香りと程よい苦味のバランスが最高」と感想を述べ合いました。何度も村に通う中で、新たな村づくりの推進する村民の想いに触れ、「村の皆さんの喜ぶ顔が見たい」「一緒にワクワクしたい」と語っていたメンバーの想いが実を結んだ瞬間でした。

イタテリクラフト

IITATE Re CRAFT

飯館村の「復興」を商品名に込めて。



ゲストハウスCOCODAのオーナー・大澤和己さん(上飯樋)の畑でホップを育て、福島市のクラフトビール醸造所「イエローピアワークス」でビールを仕込み、ラベルのデザインは合同会社MARBLING(図画倉庫／深谷)に依頼しました。



▶プロジェクトの共同代表、志賀智寛さん(右)と畑上太陽さん(共に大学院2年)。気象や生育状況を定点カメラで観測しながら毎月村に通って作業を続け、「カスケード」「マグナム」の2品種を中心に約10kgの穂花を収穫。約200Lのビールを醸造しました。



▲ゲストハウスでメンバーを歓待しホップ畑の管理にも協力してきた大澤さん(上右)。お披露目会でもメンバーと共にビールの完成を喜びました。



飯館産ホップのビールを
いいたて秋まつりで販売

「このビールのふるさと飯館村の皆さんにこそ飲んでいただきたい!」と、10月27日、いいたて村の道の駅までい館で行われた「いいたて秋まつり」に、プロジェクトのメンバーが参加。樽詰めの「IITATE Re CRAFT」を限定販売しました。

その後、「IITATE Re CRAFT」の350ml缶が、道の駅にて数量限定で販売されましたが、時を待たず、あっという間の完売でした。



「肉のゆーとぴあ」から広がる 飯舘村産のおいしい牛肉

飯舘村では現在、12軒の畜産農家が、黒毛和牛の繁殖、真牛の肥育、経産牛の肥育などに取り組んでいます。また、生産者と関係機関が「いいいたてのうしを考える会」を組織し新たなブランド牛の確立に向けて協議を行っています。



山田豊さんは家族と共に、黒毛和牛の繁殖と肥育を行い、自宅に併設する精肉店を営んでいます。真牛の他、お産を終えた母牛・経産牛の肥育にも力を入れています。



真牛 まうし

未経産牛、去勢牛に濃厚飼料を与えて肥育したサシの入った牛のこと。

経産牛 けいさんぎゅう

お産を終えた母牛のこと。牧草と濃厚飼料を与えて再肥育し出荷します。



肉のゆーとぴあ

山田豊さんが営む精肉店。新鮮なお肉を、好みや用途に合わせて用意します。また山田さんの手がけるドライエイジングビーフ(熟成肉)の美味しさは、プロの料理人の支持も集めています。「村の皆さんに普段使いしてもらえそうな売り方や加工品の生産も考えていきたいです」。

家業を継ぎ、父・猛史さんの元で牛づくりを学んでいた山田豊さん(関根・松塚)。避難の期間は約5年間、京都の精肉店「中勢以」で、肉の目利きや肉を切る技術などを学びました。その後、牛舎を新設し、自宅を再建して令和2年に帰村。新たな目標としていた精肉店を令和5年にオープンしました。「経産牛、真牛、どちらにもよさがあります。どちらも切らさず飯舘の牛を置いて置けるようにしたい」。生産者が営む精肉店という今までにない形で、飯舘村の黒毛和牛の新たな可能性を発信しています。

4人の子どもを育てながら牛を手伝う妻のあゆみさんは、管理栄養士の資格を持っています。「経産牛は細胞がガシツとして、噛むごとに味が出て香りも強い」と言います。「長い間飼う分、出荷の時は悲しいのですが、お肉になって戻って来た時に、あの子なんだと特別な感覚になります。感謝して大切にいただかなくてはいけません」。

特集1

新しいおいしさ届けます 飯舘村から始まる食物語

「おいしい食材」を育む生産者を紹介し、その調理や加工に関わるプロのお話から、新たな魅力を放ち始めた、飯舘村の農産物の可能性に迫ります。



黒毛和牛の「経産牛」の牛肉。赤身に力強い味わいがあります。



特別なおいしさは「よい仕事」から

震災と原発事故により、飯舘村の農の営みは、全てが中断されました。米も野菜も牛も果実も、それらを育んできた肥沃な土までも手放さざるを得なかった全村避難。品質のよさが自慢の野菜や花、ブランド力を上げていた飯舘牛も、これからのという時でした。

しかし、およそ6年の避難とその後7年の再生の時を経て、今、飯舘村には、魅力的な農産品が、再び誕生してきています。

その評価は、食材として村の農産品を扱うプロの皆さんからも聞かれるようになりました。飯舘村の生産者の「人」としての魅力、付度や妥協などが一切ない「よい仕事」への信頼が、プロの言葉で語られるまでになっています。

立ち止まることなく歩んできた生産者の新しい物語に耳を傾けてみてください。

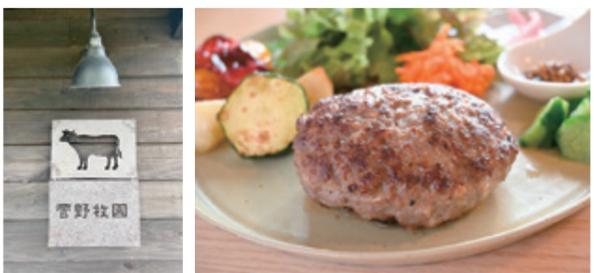


北海道栗山町で
ファームレストランを
営む菅野さん夫婦(比曾)
にお話を聞きました。

経産和牛のおいしさと いのちの物語を伝える ファームレストラン



菅野義樹さんと妻の美枝子さん。結婚の翌年、震災と原発事故による避難で北海道へ。美枝子さんはお腹に赤ちゃんを宿していました。平成27年に「菅野牧園」を開業。牧場で生産する牛肉が味わえるファームレストランは平成30年にオープン。



肉汁の詰まったハンバーグに地元野菜を添えて。ハンバーガー、ローストビーフ、カレー、赤ワイン煮なども人気です。



菅野牧園
見晴らしのいい丘の上にあります。「農村は人間回復の場所。それを必要とする人の助けになるような体験プログラムも深めていきたい」。

経産牛の再肥育は、草飼料をメインに。脂の融点が高く、お子さんや女性にも食べやすいお肉になります。ヘモグロビン濃度が高く味が濃いので塩と燻(燻)す薪の香りだけでメインを張れる、噛むとじわつとアミノ酸が出続けるのが、経産和牛のお肉のよさです。

しきとは別な選択肢として、イタリアンやフレンチのシェフにも好評で、北海道や福島、関東のお店に活用してもらっています。経産和牛は長く生きている分、物語のある食材であり、また環境にもやさしい。「いのちを食べる」食育の中で、農村の多面的価値を提示できる存在だと考えています。

私達夫婦は、平成22年に「まていな家」で手づくりの結婚式を開きました。引出物は、経産牛のソーセージ。当時も経産牛でローストビーフやソーセージをつくっていました。私は飯館の風土に魅力を感じて農業をやっていました。村でやろうとしていたことを離れた場所ですべてありますが、私の考えは全て飯館に紐づいていて、今はこの場所から飯館を発信していこうと思っています。



柔らかくて脂の甘さ際立つ 飯館産黒毛和牛は 純粹に美味しいと思います



田舎レストランラカッセ
オーナーシェフ 佐藤雄紀さん

サシの入った飯館産の真牛のお肉はもちろんおいしいですし、一方の経産牛には、熟成された赤身の味があります。山田さん(肉のゆーとぴあ)から仕入れる牛肉はすごく柔らかくて脂の甘さが際立っています。和牛のおいしさも兼ね備え、純粹に美味しいと思いますね。熟成のよさに加

え、生産者が丁寧に育てていることも感じます。経産牛は、牧草の香りがして、また牛の旨みが凝縮されていて、価格以上の価値を感じます。赤身はハンバーグ、ローストビーフに適しています。ステーキは火の入れ方を大事に、中心の温度帯を意識して仕上げています。



田舎レストランLa Kasse(ラカッセ)
飯館村出身のシェフがふるさとに開いた古民家レストラン。方言「食っせ」が店名の由来。

丁寧に育てられた 付加価値と、旨みの濃い 味わいを生かして

私達が伝統の製法でつくる加工肉には、旨み成分のグルタミン酸が通常の3倍、アミノ酸が2倍含まれていると神奈川県調査で数値が示され、自信を深めています。余計な添加物が入らない加工肉を求めの方もいらつしゃいますの

で、こだわりを持ってやり続けたいと思っています。今回初めて、山田さんの所の経産牛のお肉でソーセージとローストビーフをつくりました。丁寧に育てられた付加価値を大切に、スパイスを最小限にして、旨みの濃い肉の味わいを生かしました。牛を育てた方に食べてもらえるのも、感慨深い体験でした。



代表取締役社長の矢島二郎さん(右)と同副社長の矢島慎介さん。先代がドイツ人捕虜から習ったハム・ソーセージの伝統製法を継承しています。



熟成肉工房ジロー
神奈川県茅ヶ崎市で、およそ100年前のドイツの伝統製法を守り、熟成肉を使ったハム・ソーセージ類を製造・販売しています。



渡邊とみ子さん。震災前から雪つ娘かぼちゃに携わり、震災後はその種をつなぐために奔走。現在も栽培と加工品の生産に力を尽くしています。

白い薄皮、鮮やかな黄色の果肉、ほくほくの食感、濃厚な甘さが特徴です。

いいたて雪つ娘



震災の危機に必死でつないだ種 雪つ娘の魅力を全国に広めたい

「いいたて雪つ娘かぼちゃプロジェクト協議会」(渡邊とみ子会長/前田・八和木)が、11月23日、「いいたて村の道の駅までい館」で『第4回いいたて雪つ娘祭り』を開催しました。村内・県内はもとより全国各地から、生産者や雪つ娘ファンが集まり、育種者の菅野元一さん(宮内)による品評会、雪つ娘を使った『アイデア



「アイデア料理コンテスト」などが行われました。



地域の女性がナツハゼで染色したグッズは敬老会の記念品に。



農業高校で教師をしていた夫・元一さんの退職後に2人で立ち上げナツハゼの研究を行う



夫の菅野元一さんは、カボチャ「いいたて雪つ娘」、ジャガイモ「イータテバーク」の育種者。

予定だった菅野農園。現在は、元一さんが育種した特産野菜も栽培し、夫婦でその普及にも努めています。

村で「やまおとこ」と呼ばれるナツハゼは、活性酸素の働きを抑えるポリフェノールをブルーベリーの数倍も含んでいます。菅野クニさん(宮内)は、その栽培と研究を全村避難中に福島市で再開し、「ニコニコ菅野農園」を立ち上げました。ジャム、羊羹、お茶などの商品開発を行い、帰村後は村と福島市の2か所でナ

ツハゼを栽培しています。さらに今年2月には、福田潤シェフの監修で「なつはぜ果汁のぼん酢」「なつはぜビネガー」「なつはぜシロップ」を発売。これらはその後発売してしまいました。秋の収穫を経て、間もなく再発売となります。ナツハゼは生産者が少しずつ増え、収穫期には道の駅への出荷もありました。



ボン酢は、ナツハゼのストレート果汁に、山形屋商店(相馬市)の特選濃口醤油、真昆布、鰹節を加え、約1か月熟成させて完成します。この冬、飯館産黒毛和牛の牛肉とのセット販売も計画中です。

ナツハゼ



福田潤シェフ。株式会社sinca(シンカ/本宮市)のオーナーシェフとして、ケータリングサービスを行っている他、料理店のメニュー開発、地域おこしの商品開発などに携わっています。



万能果実ナツハゼも 飯館の食材の魅力は 生産する「人」の魅力

クニさんと意気投合し食のイベントなどに参加。ナツハゼと飯館村の食材を組み合わせ、さまざまなレシピを開発してきました。体にいいナツハゼを、おいしく楽しんでほしいと思っていて、ボン酢はナツハゼの搾り汁を赤ワインのように使いました。肉にも魚

にも合うと思います。

飯館の食材の魅力は、人の魅力だと思っています。生産者が新しいことにチャレンジをして進化していく所に大きな魅力を感じます。商品を広く知ってもらい、生産する人も加工する人も、共に潤っていきけることが、復興を考える上で重要で、私も手伝いができるばと思っています。クニさんにはこれからも課題を出してもらって、切磋琢磨したいですね(笑)

調理法で食感が変化 味が濃くてしつとり甘く 中華との相性も◎



虎包は、3年前の初回から、この企画に参加しています。店長の細野重美さん(左)とコックの下村友希子さん。

中国料理 虎包(フーパオ)
新百合ヶ丘エルミロードのレストラン街にある中国料理店。落ち着いた店内で本格中国料理が味わえます。



いいたて雪つ娘かぼちゃのたっぷり蟹クリームあんかけ

明治大学本所ゼミの企画「スペシャルコラボメニュー」。学生さんの素案にアレンジを加え、期間限定のメニューを完成させました。大変好評で品切れになる日もあります。

雪つ娘かぼちゃは味が濃くて甘い。食感は調理法によってホクホクにもサクサクにもなります。炒めても揚げてもおいしく、中華と

の相性もいいですね。本来の味を知ってもらうため、あんかけの味は薄めに。雪つ娘かぼちゃは衣をつけてカリッと揚げ、甘味が逃げないようにしています。

飯館産の牛肉とパプリカで青椒肉絲も提供中。肉の旨みが伝わるよう太めに切り、ミディアムで仕上げるようにしています。

新百合ヶ丘エルミロード(神奈川県川崎市)と飯館村のつながり 飯館村をフィールドの1つに活動し産品を首都圏につなぐ明治大学本所ゼミの働きかけで、飯館村の食材を使ったイベントを開催していて、今年は11月1日~30日に実施されました。同店営業室マネージャーの高木さんは、本所ゼミと共に、村にも足を運んでくださっています。「恒例化してイベントを目当てに来館する方もいて、売り上げ増につながっています。今年はとみ子さんが村で営む『古今呂の宿 福とみ』の宿泊券が当たるキャンペーンも実施し、多数の応募をいただきました。これからも新百合ヶ丘のお客様と、飯館村をつないでいきたいです」。

新百合ヶ丘エルミロード
高木 涉さん





フェアのコースの一部。①鶏と椎茸のポルペッティーネ ②山田ドライエイジングビーフのタルタル ③雪つ娘かぼちゃ・相馬産渡り蟹のズッパ ④山田ドライエイジングビーフのグリル ⑤宇宙帰りの笑ごまの田舎風チョコレートケーキ



オーナーシェフの加藤智樹さん。イタリア料理の真髄にある「地産地消」をコンセプトに、よりよい食材を求め生産者と広く交流しています。

雪つ娘かぼちゃは、生でも甘く、澱粉質が強い。いろいろな調理法を試して、今回はスープにしました。クルトンに見えるのは、粉をまぶして2度揚げした凍み餅です。

また、高野靖夫さん・笑子さんが育てる鶏は、骨も砕いてミートボールに。クラシクなチョコレートケーキに入れた空炒りのエゴマは、プチプチとパフのような食感になっています。

僕は作り手と会うことを常に大切にしています。飯舘村の生産者は職人気質で、よいものをつくることにこだわりがあり、料理人として、とても魅力を感じます。付加価値が高い、いい食材がたくさんあるので、県内のみならず、関東圏のレストランなどにも使ってもらえるといいですね。僕も定期的に、飯舘の美味しい食材を取り入れていこうと思っています。

catoe
郡山市のイタリアンレストラン。地産地消にこだわり、生産者の思いも料理に表現します。



ドライエイジングビーフのハンバーグ弁当。(要予約)

飯舘村の農産品の安全性やおいしさを都市部の消費者に伝える「魅力向上発信事業」の一環で、11月、郡山市のイタリアンレストラン「catoe(カトロー)」にて「飯舘フェア」が行われました。

山田さんの所(肉のゆーとぴあ)のお肉はおいしいですね。手間のかかるドライエイジングで肉質を柔らかくし、旨みを引き出す技術を持っているのは、県内では山田さんしかいない

「飯舘ならではの食材を味わう」
catoe
加藤智樹さん

まだまだある、飯舘村が育む、可能性に満ちた農産品の数々

あぶくもち



福島県農業総合センターが高冷地向けに開発したオリジナル品種のもち米「あぶくもち」。飯舘村は、震災で中断された「あぶくもち」の栽培を、福島県相双農林事務所の協力の下で復活させ、青田豊実さんを組合長に発足した生産組合と共に、生産拡大に努めています。「あぶくもち」は、現在飯舘村でのみ生産されています。

今年収穫された34tの「あぶくもち」は全て一等米。「あぶくもち」を使った切餅が、大手コンビニエンスストア、セブン-イレブンの冬ギフトカタログで全国デビューを果たし、また、同社の「おこわおむすび」にも使用され全県で販売される予定です。また、村内の飲食店なども工夫を凝らして、「あぶくもち」の加工・販売を行っています。



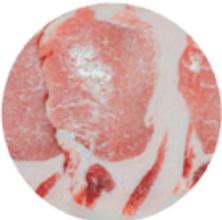
※写真は令和5年のパッケージ

洪宝豚 はんぼうとん

神内ファーム二十一株式会社神明事業部が、八木沢地区の「大空ファーム」で繁殖を行っている洪宝豚。ハンガリー固有の名品種で、食べられる国宝とも言われる「マンガリッツァポーク」の四元豚で、ハンガリーの漢字表記「洪牙利」の洪の字を名称に入れています。肉質は柔らかく、サラツとした脂に甘味があり、オ



レイン酸を多く含むヘルシーな豚肉になります。神明事業部代表の高橋義一さんは、20代の頃、福島県内の養豚場で働いていたそうです。「震災後に福島県産の肉の価格が下がり、それが完全には回復していないこと、いいものをつくっているのに相応しい評価がないことに対して、我々の取り組みが一助になればと考えています。現在は、生産体制を試行中ですが、おいしい豚肉ができています。村で生まれる子豚を、銘柄豚として押し出していきたいと思っています。」



宇宙エゴマ



エゴマ(荳胡麻)が「じゅうねん」と呼ばれるのは、「これを食べれば10年長生きする」ほど体にいいと言われてきたからだそうです。村では古くから親しまれてきた食材です。「いいたて結い農園」が育てるエゴマは、「東北復興宇宙ミッション2021」で宇宙を旅したエゴマの種から育てた「宇宙エゴマ」です。大久保・外内地区の農場で、手間暇をかけて栽培されています。刈り取りや脱穀作業は

手作業です。収穫した実は洗浄し、ハウス内の台に広げて遮光幕をかけ、自然の風でゆっくりと乾燥させています。

加工場では、選別した実の袋詰め、エゴマ油の製造なども行っています。エゴマ油が含んでいるαリノレン酸は熱に弱く、劣化が進みやすいため、成分を損なわないよう低温圧縮法で搾油し、搾り立てにもこだわっています。



第36回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

〈ふくしま駅伝〉チームメンバー

監督 佐藤 彰洋(消防飯館分署)

主将 細杉 睦輝(ハイン)

1区 遠藤 志織(飯館村教育委員会)

2区 三浦 有矢(南相馬市立石神中学校教諭)

3区 大内 龍太郎(飯館村社会福祉協議会)

4区 細杉 睦輝(ハイン)

5区 荒 高史(いいたて希望の里学園教諭)

6区 星 敬(飯館村役場)

7区 高橋 拓真(いいたて希望の里学園8年)

補欠 佐藤 賢二(JAふくしま未来)

補欠 佐藤 彰洋(消防飯館分署)

補欠 大内 匡泰(菊池製作所)

補欠 栗原 加奈絵(アステック)

補欠 鈴木 慶(いいたて希望の里学園8年)



前半のゴール開成山公園にて。選手の皆さん。

11月17日、ふくしま駅伝(第36回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)が「しらかわカタールスポーツパーク(白河市総合運動公園)陸上競技場」をスタート、福島県庁前をゴールに開催されました。
飯館村チームは、今年から認められた前半のみのオープン参加で出場。全区間での出場とはなりませんでしたが、第1回大会から36回連続の出場を果たし、想いのこもった熱い走りです。

解団式でのコメントを紹介します。

- 1区・遠藤志織選手「飯館村の駅伝チームの歴史を失くしたくないという想いがありました。職場の協力や関係者の応援、何より家族の応援に背中を押してもらい、走り切ることができました」。
- 2区・三浦有矢選手「今年で5回目の参加。職場を異動してもまた飯館村チームで参加できてうれしい。来年もぜひ参加したい」。
- 3区・大内龍太郎選手「距離が短い区間で、最大限の力を発揮しようと思いました。飯館村チームが大好きなので、来年もできれば選手として走りたいです」。
- 4区・細杉睦輝選手「今年で10回目の参加。村の人や中学生と交流ができる、とてもよい機会に恵まれていると感じています。(繰り返しを回避し)タスキをつなぐことができてうれしかったです」。
- 5区・荒高史選手「飯館村に赴任して2年目。今回のタイムは自己ベストでした。もともと早く走りたいという情熱が湧いてきました。来年以降もぜひ走りたい」。
- 6区・星敬選手「沿道からの声

- 援に背中を押され、走り切ることができました。昨年生まれた娘ともいつか一緒に走ってみたい」。
 - 7区・高橋拓真選手「初めての参加で、自分にできるだろうかという気持ちもありましたが、皆さんに支えられ、走ることができました。来年に向けてレベルをアップしていきたい」。
- サポーターとして選手を支えた補欠選手の皆さんは、チームの一員として選手を労い、「来年は自分も選手として走ってみたい」「選手の前向きな言葉を聞いて、伸びしろのあるチームだと感じました。来年も参加してチームに貢献したい」「タスキは形だけのものではなく、心と心でつなぐものだと感じました」と、チームへの想いや今後への抱負を語りました。
- また、佐藤彰洋監督は、「二人ひとりがベストを尽くした」と選手を讃え、「全ての関係者、応援してくださった皆様に感謝します」と語りました。
- 飯館村チームとしての感動の力走、ありがとうございます！



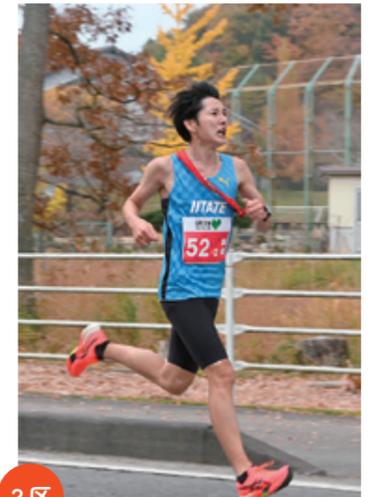
1区 遠藤志織 選手



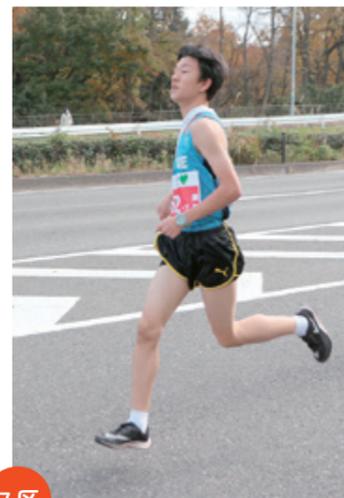
4区 細杉睦輝 主将
むつき



3区 大内龍太郎 選手



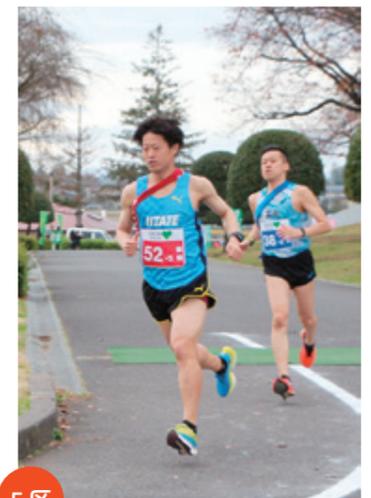
2区 三浦有矢 選手



7区 高橋拓真 選手



6区 星 敬 選手



5区 荒 高史 選手

飯館村のタスキを未来につなぐ7区間の快走!

特集2 **ふくしま駅伝**

特別展示「飯舘村の昭和」

村民が保有する貴重な家財なども取り入れた特別展示「飯舘村の昭和」のコーナーも人気を集めました。昭和期の暮らしや仕事、文化を伝える数多くの写真も展示されました。



スタンプラリー



総合文化展、特別展示、福祉チャリティー祭りをめぐって、黒毛和牛の牛肉など村産品が当たるスタンプラリーを開催しました。



福祉チャリティー祭り



社会福祉協議会と村内の福祉団体、ボランティアグループなどが、文化祭と連動して、交流センター「ふれ愛館」で、チャリティーイベントを開催。バザーや展示を行いました。

『第41回いたて村文化祭』が、10月27日、交流センター「ふれ愛館」で開催されました。当日は、総合文化展に出品された作品の表彰式が行われた他、協力団体の展示や飲食のブースを、来場者が楽しみました。総合文化展は、同24日から30日まで、同館に約900点の力作を展示しました。

いたて村文化祭



10月から11月にかけて開催された3つのイベントの様様を写真でお伝えします





第3回飯館ジャズカフェスタイル



イルミネーション点灯式



いいたて冬の花火



ふかや風の子広場

イルミネーション



いいたて秋まつり 📷

10月27日、飯館村商工会が企画・運営する『いいたて秋まつり』が、「いいたて村の道の駅までい館」イベント広場で開催されました。多くの人が来場し、飲食ブースや体験コーナー、ステージイベント、大抽選会などを楽しみました。



📷 いいたて冬まつり・いいたて冬物語

11月23日、『いいたて冬まつり』が、交流センター「ふれ愛館」、「いいたて村の道の駅までい館」で開催されました。また、飯館村商工会主催の『いいたて冬物語 第5回冬の打ち上げ花火とポーセラーツ体験』も同日開催されました。



今年は秋が深まっても例年に比べて気温の高い日が続きました。山々の紅葉もなかなか進みませんでしたが、晩秋を迎え、いよいよ広葉樹が色づきました。写真は花塚山の裾野の紅葉です。奥にかすんで見えているのは、遊歩道の入口がある飯樋地区です。花塚山は、飯館村と川俣町にまたがり、山頂に村境があります。美しい森と清流、巨岩など見所の多いこの山を改めて活用していこうと、上飯樋行政区の皆さんがプロジェクトの検討を進めています。



こども園NEWS!

ハロウィンパレード



10月31日、までの里のこども園の園児が、手作りのかわいらしい仮装をして、村役場に遊びに来てくれました。「お菓子をくれなきゃいたずらしちゃうぞ!」と声を合わせて役場内を回り、最後は見事なハロウィンダンスを披露。お菓子を手渡す職員もここにこで、園児達から元気をもらいました。

学園NEWS!

ゆずをいただきました



11月12日、いいたて希望の里学園に、箱いっぱいゆずが届きました。贈り主の小林藤吾さんは東京都在住。震災後に義援金も送ってくださっています。それから村を想い続け、「寒い地域だから、ゆずは珍しいのではないかと一昨年、昨年に続いて今年もゆずを送ってくださいました。早速ゆずを顔に近づけて香りを楽しんだ子ども達。「いいにおい!」とほっこり笑顔がこぼれていました。

までの里のこども園

綿津見神社で七五三参り



11月15日、までの里のこども園の3歳以上児が、綿津見神社で『七五三参り』を行いました。子ども達は、それぞれ自分で作った千歳飴の袋を手に神社を訪れました。神社では、宮司の多田仁彦さん(宮内)から七五三の行事の意味や参拝の仕方を教わりました。子ども達は教わった通り丁寧に小さな手を合わせ、健やかな成長に感謝し、今後の健康への願いを込めてお参りました。

いいたて希望の里学園

川俣×飯館持久走交流会



11月15日、川俣小学校といいたて希望の里学園の児童による持久走交流会が、いいたてスポーツ公園で開催され、両校の児童が元気いっぱい、低・中・高学年別の距離を走り抜きました。児童達は、学校の枠を超え、走る仲間を応援し、互いの健闘を讃え合いました。「緊張したけど楽しかった」「一緒に走れて楽しかった」と感想を話していました。

いつでも全力～みんな色のメダルで輝こう!～ いいたてっ子発表会「赤蜻祭」



後期課程・小宮の田植え踊り

3～6年・いいたて元気太鼓

1～2年・さがせ!! 希望の里学園～キーワードは…!?～

後期課程・いいたて学の発表

飯館村のPRソングとPR動画を披露

3～4年・表現転生

バナナの皮で転んだらバトルで最強になった件

5～6年・走れメロス

後期課程・ダンスの発表

全学年・ふるさと斉唱

10月26日、いいたて希望の里学園の体育館で、『いいたてっ子発表会・赤蜻祭』が開催されました。開会セレモニーでは、9年生の山田ゆり実行委員長が「思い出に残る1日にしましょう」と全校生に呼びかけ、亀田邦弘校長が「本校の児童生徒は最高です」と本番に至る取り組みの素晴らしさを保護者に伝えました。子ども達は表現力豊かにそれぞれの発表をやり遂げ、その思いを受け取った会場は、終始感動に包まれました。

応援をありがとう! 飯館村の「ふるさと納税」



応援のこもった寄附が全国から届いています。

「ふるさと納税」とは

ふるさと納税制度は平成20年に「生まれ育ったふるさとに貢献できる」「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる」納税制度として創設されました。大都市と地方の格差の是正や、人口減少地域における税収減対策、地方創生などを主な目的としています。

飯館村は、ふるさと納税を「いいたて村の道の駅までい館」「ふかや風の子広場」の整備などに活用してきました。今後も引き続き「産業振興」「教育環境の整備」「村民の健康増進」「景観向上」などに活用させていただきます。

ふるさと納税は、実質的には各自治体への寄附となり、自己負担額の2,000円を除いた全額が、所得税及び住民税の控除の対象となります(収入や家族構成等に応じて一定の上限があります)。なお、出身地域に限らず、どの自治体へもふるさと納税を行うことができます。

所得税・住民税の控除を受けるには、原則として確定申告を行う必要があります。本来確定申告を行う必要がなかった方については、確定申告が不要になる「ふるさと納税ワンストップ特例制度」が利用できます。事前の申請が必要となりますので詳しくは納税先の自治体にお問い合わせください。

掲載サイトについて

飯館村のふるさと納税掲載サイトが増えました

NEW! 楽天ふるさと納税	NEW! KABU&ふるさと納税	NEW! ふるラボ
ふるさとチョイス	ふるぽ	auPAYふるさと納税

飯館村の返礼品 (一例で写真はイメージです)



感謝を伝える返礼品を募集しています。

※国の審査があり登録までに数か月を見込む必要があります。

問 村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1622

ふかや風の子広場「ひみつ基地どきどき」来場者3万人を達成!

ふかや風の子広場の屋内運動施設「ひみつ基地どきどき」が11月16日に来場者数延べ3万人を達成しました。3万人目は福島市の成尾さんご家族です。「木の温かみのある空間で、子どもも“どきどき”で遊ぶのが大好き」というリピーターさんで「これからも利用させていただきます」と笑顔を見せました。成尾さんには記念品として飯館産のお米と菓子工房Cocittoのお菓子の詰め合わせが贈られました。



ご利用ありがとうございます。また遊びに来てください!

子育て支援センターで むし歯0の子表彰式

11月10日、飯館村子育て支援センターで「むし歯0の子表彰式」を行いました。村は毎年、「むし歯0の子表彰式」で、むし歯のないお子さんを表彰しています。今回は令和5年度の3才5か月児健康診査で、むし歯が1本もなかったお子さん11人を表彰しました。式の会場に集まった子ども達は、名前を呼ばれると元気な返事で前に出て、石井秀徳健康福祉課長から、表彰状とメダルを受け取りました。木製の遊具や玩具、絵本などが豊富にそろった飯館村子育て支援センターは、毎月開放日を設けていて、0才から小学6年生までのお子さんに保護者同伴でご利用をいただいています。今回は、表彰式を開放日に行い、出席者の皆さんにも、工作や読み聞かせを楽しんでいただきました。



むし歯0の子おめでとう!

名前	性別	行政区	名前	性別	行政区
遠藤 玲奈	女	草野	鳴原 倅乃春	女	長泥
青田 花愛	女	草野	眞柴 一颯	男	飯樋町
佐藤 凜	女	二枚橋・須萱	鹿山 桔平	男	深谷
天野 莉緒	女	大久保・外内	大内 瑛太	男	佐須
菅野 心平	男	比曾	村松 晴翔	男	大久保・外内
阿部 心咲	女	草野			

※お名前は左上から生年月日順です。



飯館村老人クラブ連合会会員交流会

11月13日、飯館村地域防災センターで、「飯館村老人クラブ連合会会員交流会」が開催されました。

交流会では初めに、会員の皆さんが、在宅医療介護連携支援センター「まるっと」による講話を聴講しました。その後、センター前の広場に移動し、福島県立医科大学保健科学部の学生と一緒に、「ホールインワンゲーム」に挑戦。会員の皆さんは、運動を通して、学生との交流も楽しんでいました。

また、同学部の協力を得て、体力測定会も実施しました。その模様は、左のページをご覧ください。



※ 講話「生活習慣病と寿命そしてACP・人生会議」

飯館村・南相馬市・相馬市・新地町の4市町村の委託を受け、相馬郡医師会が、令和6年4月に、相馬郡在宅医療・介護連携支援センター「まるっと」を開設しました。

「まるっと」は、在宅医療・介護連携において、地域をこえた広域的な支援を展開するために、コーディネーターを配置しています。

今回、「飯館村老人クラブ連合会会員交流会」の中で、コーディネーターの栗田看護師に「生活習慣病と寿命そしてACP・人生会議」というテーマで、健康的な生活を送るポイントや人生会議の大切さについてお話しいただきました。



「まるっと」コーディネーター
看護師 栗田浩子さん

※人生会議は別名で「ACP - アドバンス・ケア・プランニング」とも呼ばれます。もしもの時のために、自分が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組みのことを指します。



赤十字奉仕団の炊き出し訓練

交流会同日、飯館村赤十字奉仕団が炊き出し訓練を兼ねて、参加者に豚汁を振る舞いました。本団体は、奉仕の精神のもと、村内でさまざまなボランティア活動を行っています。団員募集も行っておりますので、ぜひお問い合わせください。



問 飯館村社会福祉協議会 ☎0244-42-1021

体力測定会を実施しました

福島県立医科大学保健科学部のご協力を得て、体力測定を実施。握力、歩行・バランステスト、TMT検査(脳の元気度の確認)を行い、会員の体力を測定しました。

参加者からは「自分を振り返ってみることができた」「自分の体力を知ることができた」という声が聞かれました。また、「大学生にエスコートしてもらって楽しくできた」と交流も楽しみながら、体力測定ができていたようです。体力測定は「フレイル予防」に効果があると言われています。



※フレイル(虚弱)とは健康な状態と要介護状態の中間の段階をさします。自分の状態と向き合い予防に取り組むことで、その進行を緩やかにしたり健康に過ごせていた状態に戻すこともできます。



福島県立医科大学
保健科学部
作業療法学科
教授 曾根稔雅さん

「フレイル」状態になるリスクを減らすには、社会参加(生きがいとなる活動)がとても大切です。生きがいがあることで「フレイル」リスクが減ることは、これまでの研究でもわかっています。生きがいとなる活動をする中で、車での外出だけでなく、歩く機会が自然と増えます。また、人と会うために身だしなみを整えたり、おしゃべりや食事でも楽しい気持ちと共有したりすることも、心と体の健康に大きく役立ちます。こうした活動を通じて、

フレイルを防ぐために大切なこと
頭を使い、体を動かし、心も満たされます。
今回の「飯館村老人クラブ連合会会員交流会」は、まさにその良い例です。みなさんが楽しそうに過ごされている姿がとても印象的でした。この活動をぜひご近所の方々とも共有してください。そして、次回はさらに多くの方々を誘って参加していただければと思います。それによって、みなさんだけでなく周りの人たちも健康になります。一緒に地域全体の健康を広げていきましょう!

TOPIC 飯館村老人クラブ連合会は、日頃から、いきいきスポーツ交流!

北塩原村の皆さんとパークゴルフ交流



11月7日、いいたてパークゴルフ場で、北塩原村老人クラブ連合会の皆さんと交流しました。参加者は両村合わせて44人。パークゴルフの後は、宿泊体験館きこりで懇親会を開き、お互いの健闘を讃え合いました。

スカットボール 県大会で優勝!



福島県老人クラブ連合会が主催する『令和6年度ふれあいニューススポーツ交流大会チャンピオン大会』に、浜通り地区代表として、スカットボールに出場。練習を重ねた成果でチームの息はピッタリ、見事5連勝で優勝しました。



花卉栽培を行うハウスで花を贈られた伊藤大臣。「共に頑張らしましょう」と高橋区長らに言葉をかけました。

伊藤復興大臣 11月に2度の来村

伊藤忠彦復興大臣が11月6日に来村し、杉岡村長をはじめとする村の幹部と会談しました。村はこの席で、ふるさとの再生と発展を目指す現在の取り組みを伝え、要望書を提出。第2期復興・再生期間後の財源確保、なりわい振興への支援などを求めました。

また、伊藤大臣は、同月20日にも再び来村して長泥地区を視察。国の環境再生事業の実施を決定した平成29年当時に環境副大臣を務めていたことから、現地で再会した高橋正弘区長、嶋原良友前区長らと、当時を振り返って懇談しました。



左から、高橋祐一教育長職務代理者、菅野さん、杉岡村長。伝達式の最後に行われた笑顔の記念撮影。

菅野クニさん 文部科学省より 地方教育行政功労表彰

菅野クニさん(宮内)が、文部科学省地方教育行政功労表彰を受けました。今回の表彰は、飯館村教育委員を12年にわたり務めるなど、本村の教育行政に携わりその発展に寄与した菅野さんの功績を讃えるものです。

表彰状の伝達式は、11月12日に村役場で行われました。伝達にあたり杉岡村長は、長年の尽力に感謝を述べ、「これからも村内に留まらない広域的な取り組みを、村の子ども達に見せていってほしい」とさらなる活躍に期待を寄せました。



両審議会の会長に就任した長正会長(左)が、杉岡村長から諮問書を受け取りました。

飯館村水道事業運営審議会・ 農業集落排水事業運営審議会

11月18日、村役場にて「第9次飯館村水道事業運営審議会ならびに農業集落排水事業運営審議会」の委嘱状交付が行われました。任期は2年間で、水道事業ならびに農業集落排水事業運営の推進と村民の福祉の向上を目的に、各事業の審議を行っていただきます。また、両審議会の会長には長正増夫さん(大久保・外内)、副会長には鹿山真広さん(深谷)が選任されました。審議会には村から、「水道使用料および水道メーター器使用料の料金見直し」等3つの諮問が行われました。

杉岡誠村長 2期目の初登庁

10月に行われた飯館村長選挙で当選した杉岡誠村長が、初登庁の日を迎えました。

2期目の初登庁は、10月28日。始業前の庁舎玄関に職員らが列をつくり、杉岡村長を出迎えました。杉岡村長は、お祝いに駆けつけた村民から花束を受け取り、庁舎に入って深々と一礼。拍手に包まれ、村長室へと向かいました。

また、職員に向けて訓示を行い、「村民が期待を持てる村政に、職員の尽力をいただきながら、全力で取り組んでいきたい」と力強く述べました。



庁舎玄関から、村長室に向かう階段にかけて、大勢の職員が並び、杉岡村長を拍手で迎えました。

飯館村和牛改良組合 畜産業への支援を要望

10月30日、そうま和牛改良組合飯館支部が村役場を訪れ、村と村議会に要望書を提出しました。

コロナ禍の影響などによる肉用牛の価格低迷が長期化し、燃料費・飼料代の高騰も続いていることから、それらの対策に、行政の理解と支援を求める要望です。松林正治支部長から要望書を受け取った杉岡村長は、「畜産業は、飯館村に住み直すことにもつながる重要な産業。振興と発展を見据えて情報交換をしながら、課題を国へも伝えていきたい」と述べました。



要望書の提出には、同様の要望を組織として行なっているJAふくしま未来も同席し、意見を交わしました。

浅尾環境大臣が 長泥で環境再生事業を視察

11月2日、浅尾慶一郎環境大臣が来村し、長泥地区を視察しました。同地区では、除染土壌を再資源化し、農地の造成などに利用する国の環境再生事業が行われています。浅尾大臣は、杉岡村長らの案内で再生土壌による農地造成の現場を視察した他、住民が花卉栽培を行うハウスを訪れ、高橋正弘区長らと懇談しました。村は、長泥コミュニティーセンターにおいて、浅尾大臣に要望書を提出し、環境再生事業に対する県内外の理解醸成や、帰還困難区域の再生・発展への支援などを要望しました。



浅尾大臣(右)に要望書を手渡す杉岡村長。ふるさとを想う住民の取り組みについても大臣に伝えました。

災害救助犬じゃがいもが里帰り

災害救助犬じゃがいもが、11月10日に里帰り。いたて村の道の駅までい館で飼い主と再会し、来館者と交流しました。じゃがいもは雑種のオスで震災発生直後の平成23年6月に飯館村で生まれました。避難に伴い岐阜県岐阜市のNPO法人「日本動物介護センター」に預けられ、約5年間の訓練と11回の認定試験チャレンジを経て、災害救助犬になりました。能登半島地震の現場にも駆けつけた活躍の様子を紹介する展示も行われました。



前乗地区のモミジが鮮やかに紅葉

佐須行政区前乗地区の火の見櫓の近くに、大きなモミジの木があります。近くに住む菅野和彦さん(佐須)から、見頃を迎えて非常に美しいと情報をいただき、11月14日にお邪魔しました。モミジは、火の見櫓と同じ位の高さまで大きく枝を広げ、見事に色づいていました。菅野さんによると、子どもの頃にはすでにこの地にあったそう。「その年によって色づき方に変化がありますが、今年も本当にきれいです」。タイムリーなお知らせをありがとうございました。



「ふらっと」綿津見神社で光のイベント

11月15日、綿津見神社で一夜限りの光のイベントが行われました。主催は、村民有志のグループ「ふらっと」です。当日は、風もなく穏やかな月夜。多くの人が神社を訪れ、キャンドルが灯された光の参道を散策しました。また、ライトアップで、モミジのグラデーションが光の中に浮かび上がり、その美しさに、見上げた人が感嘆の声を漏らしていました。「予想以上に多くの方に来ていただきました」と、代表の大内亮さん(八木沢・芦原)。「村にはまだまだ魅力的なスポットがあると思っています。みんなで楽しめる、そして観光にもつながる場所をつくっていかたいですね」と話していました。



スープやホットドリンクの振る舞いにもほっこり。



神社が用意したイベント限定の御朱印も大好評。

飯樋町行政区が防災訓練を実施

11月10日、飯樋町行政区が、防災訓練を実施しました。当日は、朝9時にサイレンが鳴り、消防団が区内を回って訓練をお知らせ。それに合わせて住民が飯館村地域防災センターに集合しました。訓練には、地区の消防団を合わせて45人が参加しました。

訓練は、消火器を使った消火訓練や、火災時の煙を擬似体験する「煙体験ハウス」での訓練、AEDの使用訓練など実践的な内容で進められ、最後に非常食の試食を行いました。訓練に参加した住民からは、「有意義な体験になった」「毎年実施してほしい」という声が上がっていました。



この日飯館村に里帰りをしてきた災害救助犬じゃがいもが来場。参加者と交流しました。



飯館産品大人気!「JAまつり」

10月26・27日、南相馬市の「ジャスマール南相馬」で『JAまつり』が行われ、村も出店して農産物や加工食品を販売しました。

飯館村のブースに並んだのは、飯館産黒毛和牛A5ランクの「もも・バラ焼肉セット」、特産のもち米「あぶくもち」を使ったおこわ、かぼちゃ饅頭、ジャンボしいたけなど、飯館ならではの品々。開場からたくさんの方にお買い求めをいただき、予想以上のスピードで売り切れ、関係者を喜ばせました。



草野行政区クリーンアップ作戦

10月20日、草野行政区が、『クリーンアップ作戦』を実施しました。区内の景観をきれいにしようという、住民の皆さんによる美化活動で、継続的に行なっているものです。

この日は33人が参加して、県道脇の草刈りや花壇の整備を中心に活動しました。また、旧草野小学校入口の法面や、交流センター「ふれ愛館」周辺も、刈り払い機で草を刈ったり手で雑草を抜いたりして、きれいにさせていただきました。



いいたて
なりわい
REPORT
vol.7

飯館村そして福島県の〈魅力〉の発信を全力で
株式会社サクラ・シスターズ



令和4年秋に飯館村に移住し、株式会社サクラ・シスターズを設立した峯岸ちひろさん。社名の由来は、台湾の言葉で日本の女性を意味する「桜花姉妹」。震災被災地の復興を後押しする台湾との交流事業や、PRコンテンツの制作・配信などを中心に、さまざまな事業を展開しています。

峯岸さんは、早稲田大学在学中に芸能活動をスタートし、休学して台湾に活躍の場を広げました。その後、日台の架け橋となり活動する中で、「台湾さらには世界に日本の文化を発信したい」と起業を考えるようになり、復学した折に福島を訪れ、未だ復興途上にある

村内有志が協力して開いたイベントで司会を務める峯岸さん。(令和6年7月)



る被災地からの発信を決意。また、現地からの発信にこだわり、豊かな自然と暮らしたたずまいに心ひかれた飯館村に移住しました。

令和5年には、台湾台北市で開かれた食品展示会に出展し村や県の産品をPR。また、台湾から飲食業者を招いて村内をめぐり、飯館村の産品のよさを確かめてもらいました。さらには台湾の人の視点でも福島の魅力発信してほしいと、撮影チームを招いて動画を制作。昨秋、台湾のプロ野球チーム「楽天モンキーズ」の試合で上映しました。



台湾から飲食業者を招き村産黒毛和牛などの安全と魅力をPR。(令和5年9月)

台湾のスタッフも含め従業員は現在5人。南相馬市と川俣町にも支店事務所を置き、幅広い事業に対応しています。

また、伊丹沢地区にあった事務所を上飯樋地区に移転します。新事務所の場所に面する畑「サクラグリーン」では、東京から作られた液体を肥料として使う実証実験を行っています。

村産の御影石(花崗岩)の活用にもつなげようとしています。

村民とつながり、全国とつながり、海を越えた人々ともつながって、サクラ・シスターズの挑戦はまだ続きます。

いいたて夏まつりにて



台湾でオーディションを行いアイドルグループ「福島もも娘 from Taiwan」をプロデュース。村内のイベントにも何度も訪れパフォーマンスを披露しています。

株式会社サクラ・シスターズ
飯館村飯樋字原(※移転準備中)
☎0244-26-9582
info@sakura-sisters.com

衆議院議員選挙 村内の選挙結果について

10月27日に投開票が行われた第50回衆議院議員選挙について、村内における選挙結果をお知らせします。今回は、期日前投票と当日投票を合わせた投票率が46.12%で、前回令和3年の衆議院議員選挙の村内投票率を6.55%下回りました。

- 当日有権者数 4,100人(男2,106人・女1,994人)
- 投票者数 1,891人(男1,017人・女874人)
- 投票率 46.12%(男48.29%・女43.83%)

小選挙区	※届出順
齋藤ゆうき	708票
くまがい智	152票
坂本竜太郎	963票
※無効票68	



比例代表	※届出順	票数
自由民主党		712票
日本共産党		118票
社会民主党		33票
国民民主党		79,791票
公明党		232票
日本維新の会		29票
参政党		28票
立憲民主党		514,208票
れいわ新選組		74票
		※無効票71

※立憲民主党と国民民主党の略称がいずれも「民主党」だったため、「民主党」と書かれた票は按分(あんぶん)・得票率に応じて比例配分され、票数が小数点第3位まで記載されています。

11月の村の動きと主なできごと

- 2日・浅尾慶一郎環境大臣 村内視察(長泥地区)
- ・日本でも美しい村まつり2024(東京都港区・東京ポートシティ竹芝)
- 2〜4日・大阪大学まちなか祭(大阪府豊中市・大阪大学豊中キャンパス)
- ・明治大学生明祭(神奈川県川崎市・明治大学生田キャンパス)
- 6日・伊藤忠彦復興大臣 来庁(村役場)
- 7日・横田フミエさん 百歳賀寿(鹿児島県鹿児島市)
- 9日・福島しごと&くらしフェア(東京都千代田区・東京交通会館)
- 9〜10日・第61回黒区商工まつり(東京都目黒区・目黒区民センター)
- 10日・秋の防火パレード(交流センター「ふれ愛館」・村内各所)
- ・むし歯0の子表彰式(飯館村子育て支援センター)
- ・大倉地区農地中間管理事業調印式(大倉集会所)
- 11日・ふくしま駅伝結団式・壮行会(交流センター「ふれ愛館」)
- 13日・飯館村老人クラブ連合会交流会(飯館村地域防災センター)
- 15日・川俣小学校いいたて希望の里学園 持久走交流会(いいたてスポーツ公園)
- ・交流センター避難訓練(交流センター「ふれ愛館」)
- 17日・ふくしま駅伝(第36回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会 オープン参加(白河市・郡山市))
- 18日・第9次飯館村水道事業運営審議会ならびに農排水事業運営審議会(村役場)
- 19日・第4回環境回復検討委員会(村役場)
- ・第3回文化財保護審議会(交流センター「ふれ愛館」)
- 20日・農業委員会村内視察研修・農地パトロール研修及び定例総会(二枚橋・須萱/村役場)
- ・伊藤忠彦復興大臣 村内視察(長泥地区)
- 21日・第2回飯館村第7次総合振興計画策定専門部会(交流センター「ふれ愛館」)
- 22日・定例教育委員会(村役場)
- 23日・いいたて冬まつり/冬の打ち上げ花火とポーセラーツ体験(交流センター「ふれ愛館」/いいたて村の道の駅までい館)
- ・魅力向上発信事業「肉フェス」出店(宮城県七ヶ浜町)
- 23〜24日・移住検討者向けモニターツアー「つながるミチシル旅」(村内各所)
- 24日・比曽地区農地中間管理事業説明会(比曽集会所)
- 26日・飯館村情報通信環境整備事業ワークショップ(須萱集会所)
- 27日・令和6年度第3回行政区長会議(交流センター「ふれ愛館」)
- 29日・相双教育事務所公民館訪問・相馬地区社会教育委員研修会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・いいたての牛フェア(東京都台東区・レストラン大宮 浅草本店)
- 30日・わくわく農業体験塾 料理交流会(交流センター「ふれ愛館」)

イノシシにまつわるうわさ話

鳥獣対策の仕事をしていると、農家の方や住民の方から、イノシシに関する色々なうわさ話を聞きます。今回は、そのなかでも対策に影響しそうなものについて説明します。

特定の色や臭い、音や光を嫌がる？

結論から言えば、特定の何かを嫌がる習性を持っているわけではありません。急に知らないものが置かれたり、知らないものの臭いがすると警戒するというだけで、一時的に出没が防げても、長期的な効果は期待できません。もし、皆さんが普段歩いている道に、突然怪しげなお化けの描かれた看板が出現したら、不気味に思うでしょうし、警戒もすると思います。でも、その看板がずっと置かれていて、何の害もないとわかれば、いずれ日常の景色になって、前を通っても何とも思わなくなるのではないのでしょうか。それと同じで、すぐに慣れてしまうのです。

また、自然の中に餌が少ない時期は、イノシシも生き残るために必死です。今日食べなければ死んでしまうという日もあるかもしれません。そんなイノシシにとっては、いくら警戒させるようなものがあったとしても、畑の作物の魅力が勝ってしまうのではないのでしょうか。野生動物への対策は、手軽な対策だけだと、太刀打ちできません。環境整備や防除、捕獲などを根気よく続けましょう。



ブタと交配して多産になった？

そもそも、イノシシを家畜化したものがブタです。なので、イノシシとブタが交配しても、その子孫にたいした変化は起きません。野生動物を調べるために、自動撮影のカメラを設置しているのですが、10頭くらいの子どもを連れてイノシシが撮影されることがあります。しかし、よく見ると、大人のイノシシも複数頭撮影されていることが多いのです。これは、大人メスのイノシシが複数で群れていて、それぞれの子どもが一緒に行動しているだけなのです。でも、このような群れを目撃して、大人メスが複数いることに気付かなかつたら、子どもの多さに驚くでしょうね。

また、イノシシが1年に2回子どもを産むようになったと聞くことがありますが、イノシシは、子育ての期間中は妊娠しません。しかし、春に子どもが生まれて、その子どもが何らかの理由で全部死んでしまったら、また妊娠して秋に子どもを産みます。この性質は、ブタも同じで、元々そういうものです。ですから、年に2回子どもを産むイノシシがいても、特殊な進化を遂げたスーパーイノシシになっているわけではありません。対策してもきりが無いとは思わず、やはり根気よく対策を続けましょう。

イラストも…!

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯舘村の主担当となりました。

飯舘牛の誕生

歴史の散歩道

「飯舘牛」のブランド化は、第3次総合振興計画（昭和60年発効）の策定にあたり、若手村民が議論した中から生まれた事業でした。昭和60年の肉用牛の飼育戸数は765戸。飼育頭数は4000頭を越えていました（農林業センサスより）。村は、関係機関と協力し、繁殖・肥育・加工販売までを村内で行う体制を整え、牛肉の宅配事業「ミートバンク」をスタート。定期的に新鮮な飯舘牛を味わってもらおう会員制のサービスで、昭和60年4月1日には出発式を行い、約750戸に第1便を発送しました。昭和61年3月には東京都でキャンペーンを実施しました。銀座の三笠会館で継続会員60人とマスコミを招いて飯舘牛パーティを開催。新宿では、早朝に村を出発した山田健二村長（当時）と関係

村一丸のブランド化

職員が、ランチタイムで行き交う人に「おいしい飯舘牛をどうぞ」と街頭でステーキを振る舞いました。「飯舘牛」は、村内で肥育された黒毛和種の肉用牛でA3ランク以上のものを「飯舘牛」、A4・A5ランクのものを「特選飯舘牛」として販売しました。その後も品種改良や肥育技術の向上に関係機関が一丸となって取り組み、村は平成7年に畜産技術センターを設置。消費拡大に向けた事業も数多く展開しました。村内でも毎夏牛肉を味わうイベントを開催し、県内外から多くの人が訪れました。震災と原発事故による「飯舘牛」の喪失は余りにも惜しいことです。村では現在12軒の畜産農家が黒毛和牛の生産に取り組んでいて、「いいたてのうし」を考える会が新たなブランドの確立に向け協議を進めています。



平成7年に村民の森あいの沢で開かれた「第11回いいたて牛まつり」。夏の恒例行事として定着していました。



昭和60年の「大火山牧場フェスティバル」には県内外から約2,000人が来場。写真は牛肉パーティの様子。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

古本市やっています！

公民館図書として使命を終えた本や、蔵書にならなかった本、学校図書室のリサイクル本などを交流センターのロビーで配布しています。気になった本はお持ち帰りいただくことが可能です。ぜひ手に取ってみてください。



交流センターをご利用の機会に、ぜひお立ち寄りください。

今年もたくさんの方々に交流センターを利用いただきました。ありがとうございました。来年もよろしくをお願いします。



問 生涯学習課 ☎0244-42-0072

杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



10月27日の2期目スタートから早1か月。日に日に山々が色づき、このコラムを書いている今は、文字通りの霜月となりました。

11月、12月は来年度の予算を編成する大事な時期です。いち早く、ご来村いただいた伊藤忠彦復興大臣、浅尾慶一郎環境大臣には、これまでの国への要望に加え、様々な苦難の中にあつても「村を興さん」がために前に向かつて歩み続ける村民、村の取り組みを自身の言葉でお伝えし、大きなうねりをいただきました。

田畑や道路、お宅周りが美しく維持されていることは、決して当たり前のことではありません。草刈りひとつにも村民の思いや努力、将来への布石が込められています。大臣、副大臣、政務官をはじめ各官庁の方々、各種委員会の方々には、今後も「徹底した現場主義」を求めて参ります。

12日には、先月、村の功労表彰も受賞された菅野クニさんから、文部科学省地方教育行政功労表彰のご報告をいただきました。ふるさとへの担い手の皆様の積年の活躍がこうして評価され、讃えられることは、村にとつてかけがえのない財産です。日頃からの手まめで細やかなお取り組みに感謝申し上げます。

23日には、沢山のイベントが開催されました。「いたて雪の娘祭」では、飯館、相馬、新地、霊山、長野、福岡他から雪の娘かぼちゃの生産者が集い、創意工夫に満ちたレシビや品評会を催される様に、ただただ顔がほころびました。

「いたて冬まつり」では、商工会青年部の皆様の熱意と想いがこもったイルミネーションの点灯式と、オリオン座が煌めく夜空を彩る「冬の花火」が開催されました。多くの方々にお楽しみいただけたいと思います。

同日に役場の若きお二人のご結婚のお祝いもあり、私自身、本当に心温まる一日を過ごさせていただきました。全ての皆様に心から御礼申し上げます。

地域おこし協力隊の高橋さんのお店「Cocitto」も草野にオープンしました。バスケット地方のお菓子を村の産品で作りたい、首都圏に進出したいという大きな目標をもった隊員のお店です。ぜひ皆様に味わっていただけたら嬉しく存じます。

また、11月末頃から、東京浅草の「レストラン大宮」にて飯館産黒毛和牛のメニューが提供されます。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。

この他にも、村の生産者さんや産品の最新の動きは、広報いたてと並行して、村ホームページから見られるウエブマガジン「飯館村の食と暮らし」や、村公式インスタグラムアカウントの「飯館村の食と暮らし」でも随時発信しております。手と手を取り合うことで、さらに加速していくワクワクにぜひご期待ください。

寒さ厳しい折、皆様には「自愛、自愛、自愛の日々をお過ごしください」とお願いいたします。

おめでとうございます！ 横田フミエさん 百歳賀寿

横田フミエさん(草野)
大正13年11月7日(満100歳)



お誕生日に合わせて、賀寿の褒状や記念品を郵送させていただきました。素敵な写真をお送りいただき、ありがとうございます。

村民広報委員 富士男の

ちょっと寄り道 ⑧

〈自分を大切に!!〉



前略 皆様、お元気ですか？ もう12月です。寒い季節になりました。まもなく、楽しいクリスマスと、あの慌ただしく忙しい年末の時がやって来ます。

皆様も、それぞれに、それぞれの場所でお暮らしの事とは想いますが、自身の健康の方はいかがでしょうか？ 時々、旅行にでも出かけているのでしょうか？ 自分の事を大切にしているのでしょうか？

私自身も先日、村の健診の後、保健師の人から血圧が高いとか、尿酸の数値が高いとか言われました。現在まで、自分の身体の事など何も気にせずに暮らしていましたが、近頃、友人、知人の身体の調子が悪いとの話を聞き、ちょっとは注意してみる必要があるのではないかと感じています。私達はもちろん、若い人達にも日々、健康のことを考え、いつまでも元気な生活をしてほしいと想っています。

家族と一緒に笑い、花を見て美しいと想い、仲間達と一緒にスポーツをして、酒を飲み、心温まる想いの中で時を過ごしてみたいと想っています。

風が吹いて秋の終わりを告げ、雪のきらめきが過ぎて、またステキな新年を迎える時が来ます。自分自身を大切にすることが、やがてみんなの俵せになる事だと、信じています。

追伸 皆様もお元気で！ よいお年を！！



ひとのうごき

結婚おめでとう

氏名	出身地
西 輝 樹さん	上飯樋
佐藤 玲奈さん	伊達市



HAPPY WEDDING!!

ひとのうごき 令和6年11月1日現在

人口	今月(前月比)	10月1日~31日までの人口動態
●男	2,298人(-12)	転入 4人
●女	2,242人(-14)	転出 15人
計	4,540人(-26)	出生 0人
世帯数	1,796戸(-4)	死亡 15人
		(住民基本台帳人口)

(10月21日から11月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

おくやみ

氏名	年齢	行政区
中川 廣 男さん	100	宮内
木幡 春光さん	71	伊丹沢
久保内 亨さん	95	大久保・外内
長谷川 智恵子さん	94	前田
佐藤 清勝さん	55	二枚橋・須萱
菅野 功さん	72	宮内
原田 實さん	90	上飯樋
椀沢 秋子さん	95	草野
佐藤 八十八さん	88	草野
森 永 睦 雄さん	77	前田・八和木
高橋 イミ子さん	93	長泥

ご冥福をお祈り申し上げます



までいなカペラ ふかや風の子広場に大学生が響かせたアカペラのハーモニー

10月27日、ふかや風の子広場に、アカペライベント「Madeina Capella〜いいたてアカペラヴィレッジ〜」が開かれました。昨年引き続き二回目の開催です。福島大学をはじめとする東北の大学の学生や全国で活躍するアカペラグループが広場に集い、それぞれ

れに特色のある美しいハーモニーを奏でました。最後に披露された楽曲、日食なつこの「音楽のすゝめ」については、代表の高月雄大さんが「この歌には飯館村の人達への復興のメッセージが詰まっています」と紹介。力強い歌詞の曲です。皆さんもぜひ聞いてみてください。



アカペラの全国大会『A cappella Spirits』の部門別大会で優勝経験のあるアカペラグループ『おりがみ』も出演。



〈Madeina Capella 実行委員会〉飯館村民と若い世代がアカペラを通して交流することを目的にこのイベントを主催している実行委員会。関東圏の大学生が中心となり活動しています。キャッチコピーは『さあ、奏でよう。「までい」な一歩からはじまる壮大なハーモニーを』。



参加者の皆さん素敵な演奏をありがとうございました！



来場者が飛び入り参加する「アカペラ体験」も実施。

いいたて村芸能発表祭 出演者募集

来年2月に開催する『いいたて村芸能発表祭』の出演者を大募集！民俗芸能団体や文化サークルの他、個人の方もぜひご参加ください。



いいたて村芸能発表祭

令和7年2月16日(日)
交流センター「ふれ愛館」

応募締切 令和6年12月27日(金)

※希望多数の場合は調整させていただきます。

主催 いいたて村芸能発表祭実行委員会

問 交流センター「ふれ愛館」 ☎0244-42-0072

〈編集後記〉

秋の涼しさを感じる間もなく、冬の気配が近づいてきました。いいたて冬まつりの花火やふくしま駅伝の選手達など、難しい写真を何とか撮影して見返すと、夏のはやま湖花火大会やナイター駅伝の時と比べて、なんとなくうまく撮れているような気がします。あの時よりは、少しは成長しているのかなと感じた今日この頃です。冬の寒さに

負けず、今後も精進していきます。(巻野)

今年もたくさんの方に忙しい中時間を割いてご協力をいただきました。それぞれのお仕事に向き合う姿、飯館村に寄せる想い、応援の温かなお気持ち、全て忘れることのできない号になりました。今年一年の感謝を込めて、広報いいたてに関わってくださいの皆様、本当にありがとうございます。(星)